

日本科学者会議 第19回総合学術研究集会（岡山） 2nd Circular

テーマ： 「持続可能な社会への変革をともに」

日時： 2012年 9月14日(金)～16日(日)

場所： 岡山大学一般教育棟（岡山市北区津島中2-1-1）

2011年3月11日の東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故は、かつてない苦難を多くの人々に強いているだけではなく、すべての分野の科学者に、自己の学問の意義と社会的責任の在り方をあらためて問いかけている。

こうした中で、日本科学者会議第19回総合学術研究集会は、「持続可能な社会への変革をともに」をメインテーマにかかげて開催される。1987年の「環境と開発に関する世界委員会」（ブルントラント委員会）が、「持続可能な発展」（sustainable development）を「将来世代の欲求を満たしつつ、現在世代の欲求も満たすような発展」と定義して以来、それは、その後の環境問題解決の前進にとって大きな役割を果たしてきた。と同時に、それは、「持続的経済成長」や「持続的開発」の隠れ蓑として使われてきたことも間違いない。日本科学者会議は、そうした両面を批判的に検証し、これまでも「持続可能な社会（sustainable society）」を掲げて研究活動を積み重ねてきている。

ところが、3.11以降の、菅内閣の「復興基本法」（2011.6.20成立）や野田内閣の「基本方針」（9.2閣議決定）をみても、民主党政権の「持続可能な発展」とは、「持続的経済成長」や「持続的開発」、すなわち「新成長戦略」路線の具体化でしかない。

とくに、原子力発電所は、大量生産・大量消費社会のエネルギー源として地球環境問題の一端を成し、またそれ自体制御不能でかつ軍事転用可能な技術であるという点で、人類存続にとってますます危険な性格を露呈している。人類は自らの存続のために、自然に働きかけて、資源を社会過程に取り入れ、膨大な廃棄物を排出している。そのバランスの崩壊が危機的状況を呈しており、原発問題はその象徴である。

こうして、日本科学者会議がこれまで追究してきた「持続可能な社会」の構想を、限られた分野の科学者だけではなく、いまやすべての分野の科学者の総力をあげて具体化することが求められている。その作業は、現代社会の在り方を深刻にかつ批判的に問い直すこと、すなわち、変革へと方向が定められたものとなるはずであり、また、市民と共にするものでなければならない。

日本科学者会議第19回総合学術研究集会が、「持続可能な社会」の概念と内容を深め変革への道筋を明らかにするとともに、その実践を共にする幅広い連帯の展望を見出すことを期待したい。

2012年3月17日

第19回総合学術研究集会実行委員会

講演会・分科会一覧

(括弧内は開催時間帯)

特別講演会

記念講演 池内 了：持続可能な社会への変革とともに (14 日午後)

特別講演

特別講演 1 安齋育郎：原発破局への道
～翼賛体制を構成した 7 つの要因と変革への道～ (14 日午後)

特別講演 2 室崎益輝：安全・安心な社会の構築のために
～防災に何が必要か～ (14 日午後)

交流会

市民団体との交流会 (14 日夜)

若手研究者 交流会 (14 日夜)

女性研究者 交流会 (14 日夜)

マスターズレクチャー

これまで日本科学者会議 (JSA) の活動を中心となり担ってきて頂いた方々の活動経験を、現役世代、特に若い世代にメッセージとして伝えて頂きます。JSA との関わり、活動の思い出、今後の JSA や現役・若手・院生会員への期待などを、お話し頂く予定です。

川崎 健：JSA と私の研究—半世紀を振り返って— (15 日午前)

北村 実：JSA は学問の伴侶 (15 日午前)

小森田精子：JSA 会員の協力で作り上げた講義 (15 日午前)

本間 慎：JSA に育てられて (15 日午前)

ヤングサイエンティストレクチャー

全国各地で活躍中の JSA 若手会員が行っている自らの専門研究を一般向けに分かりやすく紹介して頂きます。

日時：第 2 日目 (15 日) 14:00-14:20

場所：各分科会会場

講演募集分科会

S 特別セッション

19 総学特別セッション「東日本大震災—復旧・復興への提言」

日本科学者会議 東日本大震災問題特別研究委員会主催 (15 日午前・後)

L 特別分科会

L-1 古代吉備の環境と歴史 (15 日午前)

L-2 「国連 ESD の 10 年最終年会合」に向けて
～国内外の ESD の現状と課題そして将来～ (15 日午前)

A 憲法・平和・思想

- A-1 平和・安全保障問題
—核不拡散条約体制から核兵器全面禁止体制へ— (15日午前・後)
- A-2 生命倫理の今日的課題 (16日午前)
- A-3 21世紀社会像の展開 (16日午前)
- A-4 「フクシマ」を通して近・現代の意味を問い直す (15日午後)
- A-5 憲法改正構想の憲法学的・政治学的検討 (16日午前)

B 経済・医療・暮らし

- B-1 人間存在と「パーソン論」 (15日午前)
～重度障害者・認知症者などは「生きているのがかわいそう」なのか～
- B-2 地域社会・経済と地方自治の今日的課題と創造的展望 (15日午後・16日午前)
- B-3 保健・医療・福祉の現代的課題と対策 (15日午後)
- B-4 放射線の人体影響 (16日午前)
- B-5 資本主義と医学・医療 (16日午前)

C 公害・環境・エネルギー・災害問題

- C-1 食と農の政策科学—震災後の食と農を考える— (15日午後)
- C-2 福島原発事故と原子力行政 (15日午後)
- C-3 予防原則・リスク論を考える (15日午前)
- C-4 大震災に学ぶこれからの防災の課題 (16日午前)
- C-5 自然エネルギーの普及に向けた戦略 (15日午前・午後)
- C-6 瀬戸内の地域環境再生 (16日午前)

D 科学・技術・教育・社会

- D-1 宇宙，物質，生命，人間と社会の動的構造と発展
(第2回複雑系科学シンポジウム) (15日午前・午後)
- D-2 女性研究者・技術者のこれまでと今，そしてこれから (15日午前)
- D-3 科学・技術の現状批判
—日本の科学・技術の健全な発展のための課題 part5— (15日午前)
- D-4 科学・技術サロン
—日本の科学・技術の現状とロマンを語る part5— (15日午後)
- D-5 3.11後の社会運動と大学院生 (15日午後)
- D-6 真の科学・技術，学術政策を求めて (16日午前)
～第4期科学技術基本計画策定後の「科学技術イノベーション」政策の展開～
- D-7 今，改めて科学・技術教育を考える (15日午前)
- D-8 研究者の権利・地位，倫理の確立のために (15日午後)
- D-9-1 大学・試験研究機関の現状と課題
大学・国公研の『法人化』がもたらしたもの (15日午前)
- D-9-2 大学・試験研究機関の現状と課題
大学改革をめぐる現状と課題 (15日午後)

1. 開催日程

日	時間帯	内 容
14 (金)	12:00 - 13:00 - 13:20 13:20 - 14:30 14:40 - 16:40 17:00 - 18:00 18:30 - 20:30	受付開始 開会式 基調講演 池内了氏 「持続可能な社会への変革をともに」 特別講演1 安斎育郎氏 特別講演2 室崎益輝氏 ポスターセッション 市民団体との交流 女性交流会 若手交流会
15 (土)	8:30 - 9:00 - 9:50 10:00 - 13:00 14:00 - 14:20 14:30 - 17:30 18:00 - 20:00	受付開始 マスターズレクチャー 分科会Ⅰ・ポスターセッション ヤングサイエンティストレクチャー 分科会Ⅱ・ワークショップなど 懇親会（岡山大生協）
16 (日)	8:30 - 9:00 - 12:00 12:00 - 13:00 14:00 - 16:00	受付開始 分科会Ⅲ・ワークショップなど 閉会集会 学内エクスカージョン（池田家文庫・ 考古学資料館，半田山演習林）
17 (月・祝)	エクスカージョン（水島ツアー，笠岡諸島）	

2. 参加費

事前参加登録

参加費：会員 3,500 円，非会員 4,500 円 院生・学生 2,000 円

懇親会費：会員 3,500 円，非会員 4,500 円 院生・学生 2,000 円

当日（規定日以降の申込者）

参加費：会員 4,000 円，非会員 5,000 円 院生・学生 2,000 円

懇親会費：会員 4,000 円，非会員 5,000 円 院生・学生 2,000 円

（いずれも予稿集含む）

1 日券 一般 2,000 円，院生・学生 1,000 円（いずれも予稿集代別）

予稿集（販売価格） 2,000 円

☆ 参加申込

当日受付の混雑を避けるため、できるだけ事前申込みをお願いします。

参加費割引あり (p.4)

振替用紙には、氏名、連絡先、「会員、非会員」、「一般、院生・学生」、「懇親会参加(有、無)」を明記し、合計金額を振り込んでください。

ゆうちょ銀行 記号・番号：01200-4-662

加入者名：日本科学者会議岡山支部

振込の控えは会場までお持ちください。

3. 講演募集

講演申請を行なう前に、あらかじめ各分科会コーディネーターにご相談ください。全ての講演は、コーディネーターがとりまとめます。講演申請ならびに講演要旨は各分科会コーディネーターへ提出してください。

開催時間が限られていますので、応募者が多数にのぼる場合は、講演時間の短縮や講演をお断りすることがございますのでご了承ください。応募後の処理についてはコーディネーターにお任せください。

講演申込は、講演者氏名・連絡先(住所、電話・FAX、E-mail)・講演題名・講演概要(200～400字)を記入して p.15 の別紙申込用紙にてコーディネーターまで申込み下さい。申込用紙のテンプレート(Word形式)は下記のホームページからダウンロードできます。申込は原則電子メールにて受け付けますが、その他の方法については各分科会コーディネーターにお問い合わせください。

電子メールの場合は、テンプレートの Word ファイルに記入し、電子メールにファイルを添付して各分科会コーディネーターまで送付ください。受付後 1 週間以内に受付確認を連絡します。なお、非会員で講演申込される方は、申込の際に非会員であることを明記して下さい。

講演者には予稿集用の原稿を作成頂きます。予稿集原稿の書式は、本サーキュラーの p.13 を参照下さい。予稿集原稿のテンプレートは、下記のホームページからもダウンロード可能です。

講演申込の締切日：6月 1日(金)

予稿集原稿の締切日：6月22日(金)

(完全版下提出、パソコン入力の必要なものはコーディネーターに確認)

申込用紙・予稿集原稿のテンプレートは下記のホームページからダウンロード可能です。

19 総学ホームページ：

http://sky.geocities.jp/jsa_okayama/sogaku19th.html

4. 講演募集分科会の概要

【S 特別セッション】

【S-1】19 総学特別セッション「東日本大震災—復旧・復興への提言」

コーディネーター：伊藤宏之（東日本大震災問題特別研究委員会）

hitoh@educ.fukushima-u.ac.jp

設置趣旨：東日本大震災は、未曾有の災害を引き起こし、さらに原発被災による放射能の放出や津波による太平洋海岸部の水産業、農業に深刻な被害を与えている。この特別セッションでは、この大地震による被害の状況を多面的に分析するとともに、津波に対する防災や被災地の復旧・復興に関して科学的な視点と住民の声を反映した論点から考察を行なう。また、原発への住民運動の現状とそれを踏まえた考察も行ない、復興に向けた提言を行なう。

【L 特別分科会】

【L-1】古代吉備の環境と歴史

コーディネーター：今津勝紀（岡山支部）tmatsugi@cc.okayama-u.ac.jp

設置趣旨：吉備を中心とした瀬戸内は、近畿と肩を並べるような巨大古墳を生み出し、その後の律令体制下においても有力な地域として独自の地歩を保って、その後の歴史的発展の基礎を築いた。こうした歴史的な特性が、瀬戸内独自の環境と人々の営みとのどのような相互作用によって形成されたのかを、主として考古学と古代史によって読み解く。

【L-2】「国連ESDの10年最終年會合」に向けて～国内外のESDの現状と課題そして将来～

コーディネーター：望月太郎（大阪支部）taromoch@mac.com, 青山勲（岡山支部）

設置趣旨：2012年は、「国連持続可能な開発のための教育（ESD, Education for Sustainable Development）の10年」（2005年～2014年）の8年目に当たり、2014年11月には、国連ESDの10年最終年會合開催地を岡山市と愛知県・名古屋市とすることが決定された。

本分科会では、19 総学が岡山大学で開催されることを受けて、「ESDの現状と課題」をテーマとする。そして、日本国内や世界各国におけるESDの成果をふまえながら、東日本大震災後の持続可能社会のあり方を展望するとともに、2014年の「国連ESDの10年最終年會合」に向けたESDの現状と課題を明らかにし、将来への展望について検討したい。

【A 憲法・平和・思想】

【A-1】平和・安全保障問題—核不拡散条約体制から核兵器全面禁止体制へ—

コーディネーター：沢田昭二、亀山統一（平和問題研究委員会）sawadas@fb3.so-net.ne.jp

設置趣旨：イラク戦争、アフガン戦争で破綻し、沖縄問題で膠着した米国は、アジアにおける軍事態勢に大きな動きを余儀なくされている。核兵器の廃絶や、閉塞した国内政治の打破を求める人々の要求と運動は、アジア・アフリカ諸国でも日本を含む先進国でも極めて高まっており、その動向は現代史を左右するものとなろう。一方で、日米同盟は中国との緊張の構図を醸成し、核を含む「抑止力」「力の政治」を21世紀に存続させる動きが顕著である。これに対応して大国化した中国がとる軍事外交政策も注目される。こうした動向を的確に分析し、「抑止力」論から脱却して、日本国憲法の平和主義を実現し持続可能な社会の基礎をなすようなアジア、世界の平和構築を展望する。

【A-2】生命倫理の今日的課題

コーディネーター：宗川吉汪（生命と医の倫理研究委員会）sokawa@snr.kit.ac.jp

設置趣旨：人間の尊厳・権利ならびに個人の責任・自律は生命倫理の二大原則とされる。これらの原則は相補う側面と相反する側面をもつ。そのことは生殖医療、臓器移植、終末期医療、重症疾患診療、救急医療、安楽死、遺体処理などで常に問題にされる。本分科会では具体例を挙げて生命倫理における尊厳概念と自律概念の理解を深めたい。

[A-3] 21 世紀社会像の展開

コーディネーター：松川康夫（21 世紀社会論研究委員会）matsuyan@k4.dion.ne.jp

設置趣旨：昨年出版した「21 世紀社会の将来像と道筋」について、社会科学系と自然科学系の方からコメントをいただき、参加者とともに議論し、論考を深めたい。

[A-4] 「フクシマ」を通して近・現代の意味を問い直す

コーディネーター：碓井敏正（思想・文化研究委員会）usui@tachibana-u.ac.jp

設置趣旨：東日本大震災時における福島原発事故は、原発の危険性だけでなく、原発に依存してきた現代の物質文明とそれを可能とした近代社会システム、さらには思考様式に対する反省を求めている。本分科会ではそのような問題意識から、近代市民社会の特性と現代社会固有の矛盾、さらには明治以降の日本の近代化の特徴を主として哲学的、倫理的、思想的観点から分析し、近・現代社会の矛盾を超える社会像、人間像を展望することとする。

[A-5] 憲法改正構想の憲法学的・政治学的検討

コーディネーター：小畑隆資（岡山支部）yutorie_-tkys_hsk@yellow.plala.or.jp

設置趣旨：憲法改正の民主党案（『憲法提言』、2005 年 10 月）や自民党案（『新憲法草案』、2005 年 11 月）が提起され、いまた、3・11 を契機に、非常事態条項の導入をうたって憲法改正を促進しようとする動きが強まってきている。さらには、地方選挙の躍進を背景に橋下・大塚維新の会が、憲法を敵視し憲法改正をかかげた「船中八策」で国政にうって出ようとしている。それらの狙いや背景については多くの議論が出されているが、その国家構想そのものの憲法学的・政治学的分析はいまだ不十分である。いわゆる憲法改正の意味を、憲法学・政治学の視点から解明する。

[B 経済・医療・暮らし]

[B-1] 人間存在と「パーソン論」

～重度障害者・認知症者などは「生きているのがかわいそう」なのか～

コーディネーター：渡部昭男（兵庫支部）akiowtnb@port.kobe-u.ac.jp

設置趣旨：「パーソン論」は、「人格」というのは「自意識」と「理性」があることだという。それが無い「認知症の状態にある人」「重度障害のある人」、「生後 1 週間の新生児」などは、（人格のない）「生物学的なヒト」であり、人でないから殺しても罪にならず、臓器移植のドナーなどにすればよいという考えである。この「パーソン論」は現代社会になにをもたらすのか。今日、その思想に対峙して、すべての人に存する人格と尊厳を確立するという現代的な課題がある。この分科会では、重度の障害のある人・植物状態や認知症などの人たちの人格をどう考えるべきかを討議し、「パーソン論」の跋扈を許さず、人権を守るために、現代的な課題を深めたい。

朝日訴訟やハンセン氏病闘争など人権保障運動で有名な岡山の地で開催される第 19 回総学において、考え合うべきテーマと考える。

[B-2] 地域社会・経済と地方自治の今日的課題と創造的展望

コーディネーター：保母武彦（地方自治・地域問題研究委員会）thobo1942@yahoo.co.jp

設置趣旨：分科会を 2 コマ（非並列、3 時間 × 2）使って実施したい。第 1 セッションは「地域の社会・経済」に焦点を当て、「安全安心な維持可能な地域社会づくり」の視点から、防災問題や TPP 問題も含めて報告・議論する。第 2 セッションは「地方行財政・自治」に焦点を当て、「民主的自治づくり」の視点から、道州制、地域主権改革、大阪都構想などの地方制度改革論と地方行財政の検討、および住民自治の主体形成について報告・議論する。

[B-3] 保健・医療・福祉の現代的課題と対策

コーディネーター：藤竿伊知郎（保健医療福祉問題研究委員会）fujisao.i@asahi.email.ne.jp

設置趣旨：長期間続く医療・介護に対する社会福祉予算の抑制は、地域医療の崩壊につながっている。また、製薬企業の企業間競争はイレッサのような薬害事件を引き起こしている。

現場で起きている問題を整理し、保健・医療・福祉分野での改善策の提言を検討する。

[B-4] 放射線の人体影響

コーディネーター：沢田昭二（愛知支部） sawadas@fb3.so-net.ne.jp

設置趣旨：東電福島原発第一発電所事故以来放射線による人体影響について国民的関心が高まっているが、最大の放射線被曝の原爆被爆者の研究が初期放射線による外部被曝の研究に重点が置かれ、今回の事故による被曝のように内部被曝についてはほとんど解明されていない。そのため放射線による人体影響について、科学者の発言が大きく分離して、市民からの不安がかえって広がっている。科学的にどこまで言えるか、科学的に決着が着いていないのはどの範囲かを日本科学者会議でも明確にしておくことが求められている。

[B-5] 資本主義と医学・医療

コーディネーター：西山勝夫（滋賀支部） katsunishi@aol.com・松岡健一（岡山支部）

設置趣旨：第18総学（2010年）の分科会「帝国主義政策と医学・医療」を継承するものとして企画したい。広く深く展開する現代の医学・医療の抱える問題のいくつかをとりあげて、創世期の資本主義の時代に立ち返りながら、報告と意見交換をしていただき、それらを通じて医学・医療のこれまでを検討し、これからの方向性と課題、あるいは医学・医療を担う者のあり方を提起したい。

[B-6] グローバル企業に依存しない日本経済を実現するために

コーディネーター：工藤昌宏（東京支部）、米田貢（東京支部）

設置趣旨：「失われた20年」の日本経済の現実、グローバル経済の段階においてグローバル企業の成長と国民生活の安定化・向上とはもはや両立しえないことを明瞭に物語っている。グローバル企業の国際競争力を強化することを主眼とする新自由主義的経済政策を止めさせ、真に国民生活を豊かにするための政策体系に転換しなければならない。そのための基本構想の確立に向けて、本分科会では、（1）相対的に自立した経済循環をもつ地域経済を各地に確立し、それらを基礎に東京一極集中型の日本経済を根本的に転換する、（2）輸出と輸入の縮小均衡を実現し、異常な円高を是正する、（3）新たな日本経済を構築するために歳出・歳入の両面において中央政府・地方政府の財政構造を根本的に転換する。その間、政府債務残高は無理に減らさない、などの論点を軸に、再生産論、地域経済論、産業論、国際経済学、財政学、金融論の立場から総合的に議論をする。

[C 公害・環境・エネルギー・災害問題]

[C-1] 食と農の政策科学—震災後の食と農を考える—

コーディネーター：西村一郎（食糧問題研究委員会） info@nishimuraichirou.com

設置趣旨：東日本大震災によって、日本の食と農の構造的な問題が浮かび上がっています。原発事故による放射能汚染は広範囲にわたり、かつTPPの導入などの議論がはじまり、農業のあり方をめぐる動きも活発化している。

こうした動きの中で、我が国の食と農のあり方を考える。

[C-2] 福島原発事故と原子力行政

コーディネーター：野口邦和（エネルギー・原子力問題委員会） noguchi-k@dent.nihon-u.ac.jp

設置趣旨：福島第一原発事故から1年経過した今日、事故の経過と原因、事故への対応、事故の責任、事故の真の収束に向かってなすべきこと、事故の教訓を明らかにして、原発推進体制を転換することが求められている。また、高レベル廃棄物の安全な処分方法が未確立、軍事利用転用など、福島第一原発事故以前から指摘されていた問題もある。本分科会ではこれらの点を解明し、国民の立場から原子力行政・原子力規制のあり方を検討する。

[C-3] 予防原則・リスク論を考える

コーディネーター：西川榮一 e-nishikawa@dab.hi-ho.ne.jp,

小野塚春吉、森家章雄（公害環境問題委員会）

設置趣旨：環境政策における「予防原則」（precautionary principle）の考え方は国際的に承認された環境政策の原則となってきたが、日本では、ほとんど「棚上げ」状態にある。その一方、環境安全政策の評価に費用効果分析を導入するリスク論は、被害の過小評価や被害者切り捨てにも

利用される状況にある。分科会では、予防原則およびリスク論が、日本の環境政策や食品安全政策で、どのようになっているかを分析（検証）するとともに、課題と問題点について検討したいと考えている。

[C-4] 大震災に学ぶこれからの防災の課題

コーディネーター：坂巻幸雄（災害問題研究委員会）DZZ03766@nifty.ne.jp

設置趣旨：千年に一度という東日本大震災とそれに伴う原発事故は、政治の貧困と相俟って、被災地住民に多くの苦難をもたらしたままになっている。しかも、新たな大災害の発生も想定域に入り、もはや猶予は許されない。科学者としてこの事態に対応する道をどこに求めるべきか。実践に基づく活発な議論を通じて、方向付けを行いたい。

[C-5] 自然エネルギーの普及に向けた戦略

コーディネーター：上園昌武（島根支部）uezono@soc.shimane-u.ac.jp

岩本智之（中長期気候目標研究委員会）

設置趣旨：福島原発事故以降、化石燃料にも原子力にも依存しないエネルギー需給体系を確保し、持続可能な社会構築への道が求められており、自然エネルギーの普及が注目されている。これは破局的な気候変化を回避する中長期気候目標の設定と実行にとっても重要な課題であり、本分科会では、国内外の事例をみながら、自然エネルギーの普及に必要な戦略を検討する。

[C-6] 瀬戸内の地域環境再生

コーディネーター：磯部 作（瀬戸内委員会）isobetsu@po6.oninet.ne.jp

設置趣旨：本分科会は、JSA 瀬戸内委員会と瀬戸内の環境を守る連絡会が 1972 年以來開催してきた「瀬戸内シンポジウム」（第 32 回）として開催する。瀬戸内では、現在、地域環境再生が重要な課題である。埋立地などに重化学工業やエネルギー基地などが立地した沿岸地域、豊かな漁場であった沿岸海域、過疎化が進む島嶼部などの地域環境再生について、そのあり方や担い手などを、瀬戸内各地からの報告を基に、発生が予想される大震災への対応も考慮しながら考察する。

[D] 科学・技術・教育・社会

[D-1] 宇宙，物質，生命，人間と社会の動的構造と発展（第 2 回複雑系科学シンポジウム）

コーディネーター：長野八久（複雑系科学研究委員会）nagano@chem.sci.osaka-u.ac.jp

設置趣旨：複雑系科学は「発展」を扱う科学である。宇宙の進化、生物の進化・発生、動物の行動、生態系・人間社会の発展・転換などに内在する普遍的法則を探る。自然科学と社会科学の熱い交流の場となることを期待する。昨年開催された第 1 回複雑系科学シンポジウムのプログラムを参照：<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/~nagano/scs1pgr.htm>

[D-2] 女性研究者・技術者のこれまでと今、そしてこれから

コーディネーター：沢山美果子（女性研究者技術者委員会）smikako@pr4.harenet.ne.jp

設置趣旨：「女性が科学技術に参画することで、『競争』から協調へ、『序列』から『ネットワーク』へ、利潤追求型から共通目標へ向かって努力できる仕組みを作っていけないか」を探ることを目的に昨年開催された「女性研究者・技術者の明日を考える」シンポジウムでの議論を引き継ぐ形で、さらに多様な角度から女性研究者・技術者の現状を明らかにし、これからの女性研究者・技術者の課題を明らかにすることを目的とする。

[D-3] 科学・技術の現状批判 ―日本の科学・技術の健全な発展のための課題 part5―

コーディネーター：長田好弘（東京支部）、久志本俊弘（大阪支部）、酒井士朗（東京支部）

ssakai@jcom.home.ne.jp

設置趣旨：高度技術社会といわれる現状において頻発する事故・不具合の背景には研究者・技術労働者の低賃金・労働強化・無権利状態が存在する。安全・安心の技術の構築を求めて、研究者・技術労働者の社会的役割や権利について語りあう。

[D-4] 科学・技術サロンー日本の科学・技術の現状とロマンを語る part5ー

コーディネーター：長田好弘，榊原道夫，松永光司（東京支部）

matsunaga_mitsushi@hotmail.com

設置趣旨：3・11 から 1 年，大震災と原発事故からの復興が遅々として進まない中，政府は新たな「原発安全神話」を振りまき原発再稼働への動きを強めている。また，JAXA 法から「平和の目的に限り」と定めた規定をなくす改定の準備を進め，衛星開発やロケット誘導技術の軍事応用の検討を進めるなど，科学・技術の軍事利用とそれへの研究者・技術者の動員が懸念されている。また歴代政府の科学技術政策のもとで研究・教育労働者の状況悪化は著しい。こうした状況の打開をめざす議論を始め，科学・技術に関する諸問題を自由闊達に議論することを設置趣旨とする。

[D-5] 3.11 後の社会運動と大学院生

コーディネーター：大月英雄（若手研究者問題委員会）ryoga@auone.jp

設置趣旨：昨年の東日本大震災以降の脱原発運動などに見られるように，社会運動において幾つかなの変化が現れてきた。しかし，運動の在り方の変容は十分に捉え切れていないように感じられる。とくに，運動の主体としての若者の意識や社会との関わり方についての変化が考察されるべきだろう。

今回は，「夏の学校」と併催として多くの若手・院生の参加を募り，上述の課題を検討することを通じて，若い参加者が科学者として今後社会と関わっていくことの意義，そこにおける課題を考え語りあえる機会としたい。

[D-6] 真の科学・技術，学術政策を求めて

～第 4 期科学技術基本計画策定後の「科学技術イノベーション」政策の展開～

コーディネーター：兵藤友博（科学・技術政策委員会）hyodot@ba.ritsumei.ac.jp

設置趣旨：3.11 の東日本大震災を受けて策定途上で見直された第 4 期科学技術基本計画は，昨年 8 月に閣議決定され，2012 年度予算等を通じて，「科学技術イノベーション」政策の一体的展開の具体化と検討が進んでいる。この第 4 期計画の現段階をその後の情勢の推移と震災復興に便乗し利益を求める惨事便乗型資本主義日本版の現れについて，批判的分析をおこない，その上で望まれる真の科学・技術，学術政策とは何かを検討する。

[D-7] 今，改めて科学・技術教育を考える

コーディネーター：高原周一（岡山支部）takahara@chem.ous.ac.jp

設置趣旨：東日本大震災，福島第 1 原発事故を契機として，科学・技術教育のあり方が改めて問われている。本分科会では，現代を生きる市民が共有すべき科学・技術リテラシーの内容とこれを小中高大での学校教育および社会教育の中で普及するための方法論，さらには一般市民のための科学・技術教育と科学・技術者育成教育との関係などについて幅広く意見交換を行い，これからの科学・技術教育の展望について考えたい。

[D-8] 研究者の権利・地位，倫理の確立のために

コーディネーター：丹生淳郷（科学者の権利問題委員会）kiyosato-new@est.hi-ho.ne.jp

設置趣旨：研究者の権利・地位と倫理の確立をめざして，第 42 回大会で報告文書として公表された文書と，同大会で採択された特別決議は，科学・技術を巡る今日的状況，ならびに 3.11 大震災と津波，原発事故の原因と対応において，学問の独立性，国民のための学術体制，そしてそれを担う研究者の権利・地位と倫理問題について，改めて振り返る価値があると考えられる。分科会では，様々な切り口から「研究者の権利・地位，倫理の確立」のために，何が問題で，何をなすべきか，などを討論する。

[D-9-1] 大学・試験研究機関の現状と課題 大学・国公研の『法人化』がもたらしたもの

コーディネーター：小滝豊美（国立試験研究機関問題委）kotaki@affrc.go.jp

設置趣旨： 国立大学と多くの国立試験研究機関が法人化されてから、それぞれ8年、11年という時間が経過した。この間に新自由主義的な政策・制度は一層深化し、法人化の流れは地方にも広がった。さらに、政権交代と東日本大震災は法人化が引き起こした矛盾を可視化する役割を果たした。加えて、今後実行されるであろう研究法人見直しによって、矛盾のさらなる深刻化が懸念される。分科会「大学・試験研究機関の現状と課題」のセッション1では法人化によって大学や研究機関にもたらされた変化を明らかにする。

[D-9-2] 大学・試験研究機関の現状と課題 大学改革をめぐる現状と課題

コーディネーター：細井克彦（大学問題委員会）es43dz@bma.biglobe.ne.jp

設置趣旨： 大学・国公研の「法人化」にかかわる問題<D-9-1>を踏まえながらも、本セッションでは大学・高等教育を軸に状況の把握と改革の方向を見定めたい。3.11は大学のあり方にも大きな影響を及ぼすものであったが、政策側はこれとは無関係のようにグローバル化対応での秋入学を突破口に大規模な「改革・再編」を行おうとしている。しかし、大学の足下はどうなっているのか、大学が社会的役割を果たすにはどうあるべきかを検討し、大学改革のあり方を問う。

【ポスターセッション】

上記の分科会以外に、自由演題としてポスター発表を受付けます。

19総学の目的の一つに、各支部参加と活動の交流があります。したがって「ポスターセッション」は、支部、地区、委員会、会員のさまざまな「交流の場」と考えます。

各支部の創立、伝統、現在の活動の紹介などを歓迎します。各支部が活動する学園、地域の学問・研究・教育活動、自治体の政治情勢と支部独自の活動、他団体との共同活動の紹介を歓迎します。

ポスターのサイズは A0 用紙縦置き（横 84.1cm×縦 118.9cm）内のサイズに収まる様に準備ください。

掲示は 14 日（金）13:00 から 16 日（日）12:00 までです。

なお、14 日（金）17:00～18:00 はポスターディスカッションの時間としますので、発表者はポスターの前にお立ちください、参加者との闊達な議論を深めて下さい。なお、分科会での発表も兼ねておられる方で、この時間帯に発表を予定されている方は可能な範囲で構いません。

ポスターセッションを申し込まれる方は、申請者氏名・連絡先（住所、電話・FAX、E-mail）・題名・掲示枚数（1枚あたり A0 サイズ）を電子メール本文中に記入し、p.15 の別紙申込用紙を添付の上、下記の電子メールアドレスまでお送りください。申込用紙のテンプレート（Word 形式）は下記のホームページからダウンロードできます。

ポスターセッション申込先： 日本科学者会議 第19回総合学術研究集会実行委員会

E-mail：renraku@ml.19sougaku.jp

申込用紙テンプレート：http://sky.geocities.jp/jsa_okayama/sougaku19th.html

ポスターセッション申し込みの締切日：6月29日（金）

5. 19 総学プレ企画

19 総学に向けた取り組みを強めるための各地区・支部・分会主催のプレ企画を推奨します。ポスターセッションでの報告展示を歓迎します。

6. エクスカーション

【1】学内エクスカーション

環境に恵まれた岡山大学が研究・教育のために活用している資源や文化財を、文・理両面にわたって紹介する。

開催：9月16日 14時から16時

集合場所：岡山大学一般教育棟前

参加費：無料

受付は、大会当日に大会会場にて行います。

A コース

訪問先：考古資料展示室，池田家文庫（附属図書館）

B コース

訪問先：半田山自然教育研究林

【2】学外エクスカーション

1. ひと・まち・環境を学ぶ 水島ツアー

水島コンビナート企業，行政，公害患者，それぞれの立場からの取り組みを視察することで，環境・人の健康に配慮した企業活動・まちづくりとは何かを考える。

集合場所：岡山駅西口

訪問先：水島コンビナート企業，倉敷環境監視センター（環境学習センター），倉敷市公害患者と家族の会

開催：9月17日 9時から17時

集合場所：岡山駅西口

参加費：5,800円（昼食，バス代込み）

定員：45名（最小催行人数10名）

担当者：塩飽 敏史 shiwaku@mizushima-f.or.jp

2. 海上タクシーで巡る笠岡諸島 ―過去と未来に出会える島―

笠岡の島には，戦後すぐに立った中学校や昭和の代表的な雑貨屋さんがあり，巨大な石きり場があります。島の自然と生活に触れると共に，人口減・高齢化が進む中で島の地域活性化に取り組む人々の活動を見聞します。

訪問先：笠岡諸島の中の北木島，真鍋島，大飛島

開催：9月17日 8時から17時

集合場所：岡山駅山陽線下りホーム（笠岡駅前9:10集合でも可）

参加費：6,000円（海上タクシー代と昼食代，保険料として）

定員：45名（最小催行人数10名）

担当者：木村良夫 kimura@econ.u-hyogo.ac.jp，白井浩子（現地実行委員）

7. 予稿集原稿の書式

用紙サイズと枚数： A4 用紙2枚。(図表を含む。)

ページ設定：1行文字数 46文字, 行数 40行。

※最後には必ず参考引用文献を明記ください。

※下記指定フォントの使用ができない時は、これに近いフォントを使用して下さい。

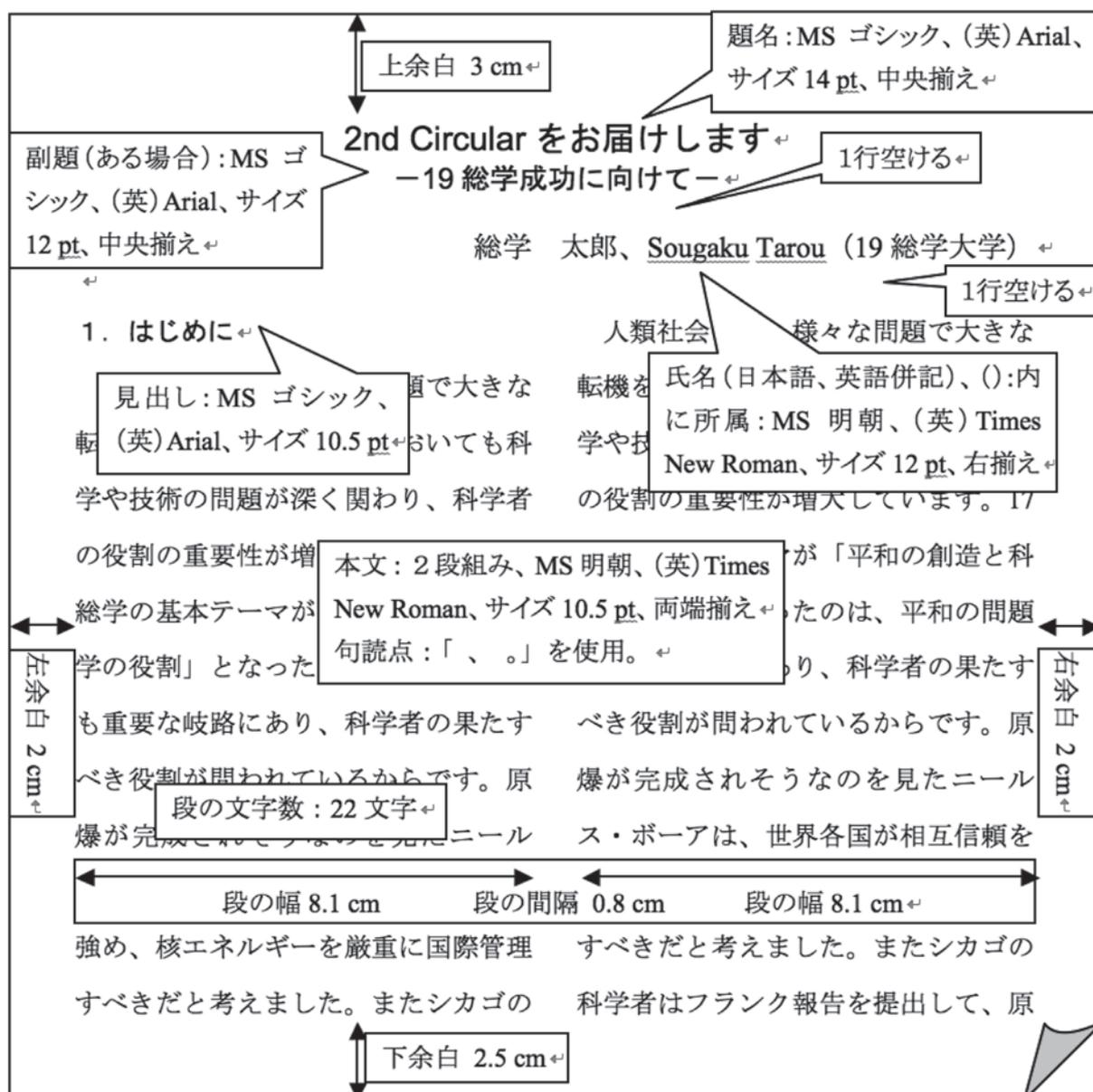
使用ソフト：Microsoft Word とします。

原稿は、doc ファイル (Word 97-2003 互換形式) と pdf ファイルの両方を提出してください。

pdf での提出が無理な方は、Word の doc ファイルのみでも構いません。

テンプレートは、19 総学ホームページからダウンロードできます。

※下記書式での原稿作成が困難な場合は、早めにコーディネーターにご相談下さい。



8. 会場案内

岡山大学（津島キャンパス・一般教育棟）

住所：岡山市北区津島中 2-1-1

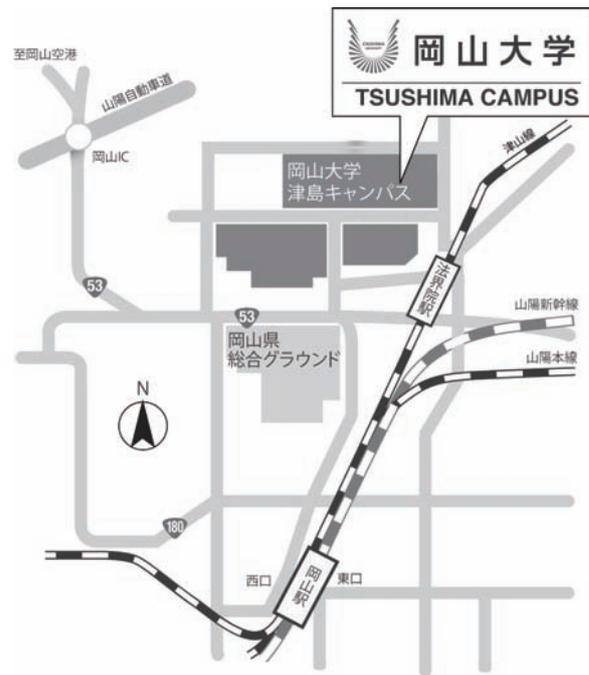
TEL：086-252-1111（代表）

岡山大学津島キャンパスへのアクセス

- ・JR岡山駅西口から
バス約8分
（22番のりばより「岡山大学・岡山理科大学」行、
「岡大西門」下車）
タクシー約7分
- ・JR津山線 法界院駅から
徒歩約10分

【保育室の設置】

保育室を希望される方は、実行委員会まで
ご相談ください（8月31日まで）。
状況に応じた保育室の設置を検討します。



【日本科学者会議第19回総合学術研究集会実行委員会】

- 実行委員長 稲垣 賢二（岡山大学，岡山支部・全国幹事）
副実行委員長 青山 勲（岡山支部・代表幹事），小畑 隆資（岡山支部・代表幹事），
白井 浩子（岡山支部・代表幹事），山口 和秀（岡山支部・代表幹事）
事務局長 松木 武彦（岡山大学，岡山支部・事務局長）
事務局次長 伊藤 宏之（全国事務局次長・研究企画部長），
望月 太郎（全国事務局次長・国際部長），
榊原 精（岡山支部事務局次長），
村上 賢治（岡山大学，岡山支部事務局次長）
実行委員 磯部 作（岡山支部），宇野 忠義（岡山支部），
岡 剛史（岡山大学），織田 銑一（岡山理科大学），
河原 長美（岡山大学），衣笠 哲也（岡山理科大学），
城ヶ原貴通（岡山理科大学），塩飽 敏史（みずしま財団），
福田 憲一（ソワニエ看護専門学校），中堀 清（岡山大学），
宮本 拓（岡山大学），市川 浩（広島大学・全国常任幹事），
吉村 高男（山口福祉文化大学），上園 昌武（島根大学），
山根 俊喜（鳥取大学），左近 拓男（秋田大学・全国常任幹事），
今井 証三（愛知支部），深井 誠一（香川大学・全国常任幹事），
岩本 智之（全国常任幹事）

日本科学者会議岡山支部事務局 岡山大学大学院社会文化科学研究科

〒700-8530 岡山市北区津島中3-1-1

E-mail：renraku@ml.19sougaku.jp（問合せ用アドレス）

E-mail：submit@19sougaku.jp（申込・原稿送付専用アドレス）

日本科学者会議事務局

〒113-0034 東京都文京区湯島1-9-15 茶州ビル9階

電話03-3812-1472，FAX 03-3813-2363

19総学ホームページ：http://sky.geocities.jp/jsa_okayama/sougaku19th.htm

2012年 月 日 (受付番号)

1. 講演者氏名 (フリガナ) :

2. 連絡先 :

a) 住所 〒

b) 電話 (

F A X (

c) E-mail :

3. 講演を希望する分科会 :

番号 分科会名

4. 講演題名 :

5. 講演概要 (200 ~ 400 字) :

注)

- ・講演申請を行なう前に、あらかじめコーディネーターにご相談ください。
- ・講演申込用紙は、コーディネーターに E-mail で送付して下さい。
- ・申込後 1 週間経てコーディネーターより受領の返信がない場合には連絡して下さい。
- ・テンプレート (Word 形式) は 19 総学ホームページにあります。
- ・電子メールが使えない方のみ、この面をコピーして必要事項を記入し、FAX か郵送で 19 総学事務局宛に送付してください。
- ・講演申込締め切り 6 月 1 日、予稿集原稿締め切り 6 月 22 日を厳守してください。
- ・ポスターセッション申込者は、講演概要の記入は必要ありません。